

# 寺族会報

## 第34号

発行 令和元年12月

発行者 曹洞宗宮城県宗務所寺族会

仙台市泉区市名坂字檜町169-4

曹洞宗宮城県宗務所内

電話 022-218-3801



# ご挨拶

曹洞宗宮城県宗務所寺族会

会長 我妻 有



地球温暖化による異常気象が危惧されている中、今年は特に台風による甚大な被害が数多く発生致しました。宮城県内においても台風十九号によりお亡くなりになられた方々には心よりご冥福をお祈り致します。被災された皆様にお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復旧・復興されま

す事を切にご祈念申し上げます。令和元年度寺族会総会並びに寺族宗務所集会・研修会が、改元後まもなくの五月八日、九日に開催され、皆様のご協力のもと無事に終了致しました。本年は役員改選の年に当たり、北村会長よりバトンを受け継ぎ、この度会長の任に就かせていただく事になりました。経験も浅い身ではありますが、宗務所長様、教化主事様はじめ宗務所の皆様のご指導の下、事務局の皆様、各教区理事の皆様のご協力をいただき、精一杯務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

本年は平成から令和へと時代が移り、また寺族会創立三十五周年を迎える節目の年でもあります。総会ではシンガー

ソングライターのさとう宗幸氏をお迎えして、「ふれあいの時をもとめて」のタイトル通り皆様と素晴らしい時間を共有できました事は、嬉しい限りでした。先輩寺族の皆様との研鑽と情熱の賜物である三十五年の歴史を途切れることなく次の世代へと繋いでいく事が役目であり責任であると痛感しております。

また、創立三十五周年記念本山研修旅行として、大本山永平寺研修旅行も開催致しました。ご自坊が大きな被害に遭われたにもかかわらず同行していただいた三田村宗務所長様には心より感謝申し上げます。

致します。宗務所長様・教化主事様・書記様と寺族二十六名が参加しまして大変有意義な研修旅行となりました。

お寺が檀信徒の皆様や地域の皆様にとって心の拠り所となるために寺族としての役割も大きくなってきています。皆様の研鑽の一助となるべく寺族会として取り組んで参りたいと思います。私事ではありますが、突然遷化しました前住職の十三回忌をまもなく迎えます。当時よりたくさんの方々に助けていただき今私があります。深い感謝の気持ちも込めまして、二年間を一生懸命務めさせていただきました。

合掌

# 挨拶

曹洞宗宮城県宗務所長

三田村 道雄



務庁より橋本総務部長をはじめ、関係職員にもご同席をいただき、「臨時教区長会」を開催させていただきました。管内の被災状況等が報告され、それに伴う豪雨災害の対応について、宗務庁より説明があり、質疑応答にと入りました。また本年は、「寺族会創立三十五周年」ということで、大本山永平寺に拝登し、本山研修会も開催されます。

時代の変化に伴い、宗門においても様々な問題を抱えておりますが、寺族の皆様にとりましては、様々な研修会を通して、寺族間の情報交換はもとより、自己の研鑽を積み、今後も健康に留意していただき、各寺院の護持、檀信徒教化活動にと、お力添えをいただきますようお願い致します。

災害により、お亡くなりになられました方々に、心よりご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された方々にお見舞い申し上げます。また、被災地における早い復旧復興されますことをこころより、お祈り申し上げます。

本年は、宗務所長として一年目。始めて寺族会総会並びに集会・研修会に出席させていただきました。一〇〇名を越える大勢の寺族様方が一同に会し、シンガソングライターさとう宗幸さんによる、感動あふれるお話と歌、総合研究

管内寺院ご寺族様におかれましては、常日頃、住職様とともに、お寺の護持・興隆、檀信徒の教化活動等に励まれている日々、ご繁忙のことと拝察いたします。

地球の温暖化や異常気象と言われている昨今、台風等の影響により、各地において甚大なる災害が発生しております。

管内におきましても、台風十九号の影響により、河川の氾濫や土砂崩れ等、ご寺院様・檀信徒の皆様にも甚大なる災害が発生いたしました。

合掌

# 平成三十一年度第二回学習会

「食べ方上手は生き方上手」

平成三十一年二月十四日  
宗務所において

## 第二回学習会に参加して

第二教区 松音寺寺族 金山 多賀子



今回の学習会は、講師に管理栄養士の飯淵由美先生をお迎えし『食』に関するお話を伺いました。飯淵先生は大学や専門学校でも講師を務められ、県内で大変ご活躍なさっています。『食へ方上手は生き方上手』をテーマに興味深いお話を沢山頂き、あっという間の二時間でした。

『自分の食べたもので自分の体は作られている』当たり前のことですが、はっとする言葉です。普段バランスの取

れた食事をしていても、改めて見直してみると足りないものがちらほらと思いつきます。「やはり献立ノートを復活させた方がよいのかも」と思いつつ、『主食、主菜、副菜を一食で摂りましょう』と家庭科の授業のような内容にうなづくことしきりでした。

『免疫力に血液力、バランスの取れた食事に、腹八分目、適度な運動に睡眠、笑いが大切』と気になる言葉が続々登場します。そして誰もが気になる生活習慣病については『もう年だから、親もそうだったし、と思いがちですが、遺伝でなるのは30%の確率しか

ありません。年だからではなく、食事の摂り方、生活習慣などが原因。クスリで治そう、サプリメントで予防しようではなく、やはり基本は食事』との御指導を受けました。

また、『現在保育園に通っている子供達が朝食にご飯を食べない。おかずなしのパン

だけという子が沢山いる』とお話は、なかなか衝撃的で「お米の消費量も減るのも当然」と納得しました。

「食事はサプリメントで済めば楽なのに」とおっしゃる方が以前おいでしたが、『錠剤だけでは味気ない。あれもそれも食べなくちゃ、とガンジガラメではつまらない』を心に置き、ゆるゆると色々な物を食べていくようにしたいと思います。

食について考える大変良い機会となりました。『どう食べるかは、どう生きるか』は、素晴らしいお言葉と思います。大変有意義な学習会をありがとうございました。

合掌



# 「食べ方上手は生き方上手」

第十二教区 観音寺寺族 矢口 さち子



天候に恵まれた二月十四日、平成三十年年度第二回学習会が開催されました。今回のテーマは「食べ方上手は生き方上手」と題して、講師は健康プランニングあい主宰・管理栄養士の飯淵由美先生でした。

先生は、長年にわたり仙台市訪問栄養指導員や仙台医師会主催の生活習慣病予防教室、糖尿病教室の講師を務める傍ら、保育所からシルバースターなどでの各ライフステージにおける「食の大切さ」の講演を数多くされています。先生の多くの実践を織り交ぜながらのお話は、とても分かりやすい内容で説得力があ

り、日頃の食生活を見直す良い機会となりました。バランスのとれた食事(主食・主菜・副菜)を摂るために、少しの工夫、考え方次第でバランスが整う具体的な事例も納得がいくものでした。「自分の体は、自分の食べた物で作られる」ということに健康で今後の生活を送る鍵があると感じました。

元気を支える「免疫力・血液力」について

免疫力を上げる4つの食事ポイント

○良質のたんぱく質 肉・魚・卵・大豆製品

○乳酸菌や食物繊維で善玉菌

○ビタミンAで粘膜を強く 緑黄色野菜

○ビタミンC・E・ファイトケミカルで免疫細胞の活性化

血液力は血液と血管のチームワーク。きれいな血液の流れる力。丈夫でしなやかな血管の隅々まで導く力。元気な赤血球、白血球、血小板の全身で働く力。

血管を痛める原因(塩分・糖分・脂質の摂りすぎ)対策として食べ過ぎ注意、塩分摂取量に注意。塩分1日男性8g以内、女性7g以内。外食の味が丁度良いと感じるのは要注意。等具体例の一部ですが内容は調理法までに至りませんでした。

この研修を思い出しながら、寺族として元気にお檀家の皆様と接し、時にこの研修の話題などにも触れたいと思いましたが、貴重な機会をありがとうございました。

合掌



# 令和元年度第一回学習会

「寺族必携に学ぶ」

令和元年九月十二日  
宗務所において

## 寺族としてできること

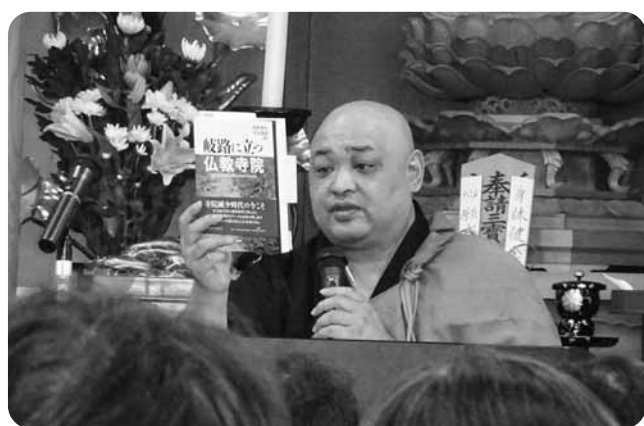
第十二教区 長谷寺寺族 鈴木 智美



今回の学習会は、宮城県宗務所教化主事の東海泰典老師を講師にお招きし、書籍「寺族必携」を中心にお話を頂きました。最初に宗旨において寺族という立場が確立してから百年余り経ち、その役割が益々期待されているということ、また「法灯を継ぐ」ということの意味と重要性を話されました。寺族としての役割が期待されるという点において、常日頃の自分自身を見つめ直すよい機会になりました。寺族は、「住職に協力し、共

に寺門の興隆、住職の後継者の育成及び檀信徒の教化にとめるものである」とされています。

「ご縁を頂き、お寺に嫁いであらう二十数年、無我夢中でやっ



てきたものの、寺族としてただだけお寺に貢献できているか不安に思うところがたくさんあります。講師先生のお話を聞いていて、自分が勉強不足だと痛感させられることばかりでした。でも、同じような悩みをもっていらっしゃる他の寺族さんたちと話をしたり、また情報を共有したりすることで自分にできることから少しずつ始めていこうと思えました。

講師先生のお話にもあったように、寺院を取り巻く状況は、地域によって様々で、良い方向に向かっていっているとは一概には言えず、お寺の在り方が問われてきています。全国の各管区の教化センター、青年会や各御寺院様が多様な活動をされていることを知り、今自分が置かれている状況で何ができるのか、何をすべきかを考え、今後に生かし



ていきたいと思えました。まさにその活動が「法灯を継ぐ」ことに繋がっていくと信じています。

この度の学習会に参加させていただき、寺族として自分を律し、奮起させるよい機会となりましたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。

合掌



# 宮城県宗務所寺族会総会・懇親会報告

(令和元年五月八日・九日) ― ホテルニュー水戸屋 ―

## 県寺族会総会に参加して

第十三教区 大永寺寺族 武田 美知子



新元号令和になり初めての総会、さらに県寺族会創立三十五周年の記念すべき総会に参加できて嬉しく思います。新緑がとても美しく好天に恵まれた中、シンガーソングライターのさとう宗幸さんの「ふれあいの時を求めて」の講演が始まりました。お馴染みの曲や初めて聞く曲もありました。柔らかく語りかける

ような歌声、生ギターで奏でる調べはとても癒されました。今日秋保まで来る道程の色とりどりの樹々の緑、川、海、空と美しい景色が浮かび心地良い一時でした。永六輔さんやご友人のエピソードにふれられ、ご友人がアフリカのジンバブエの独立運動に寄与した事、大病を患い一度帰国し、懸命なりハビリをし、またアフリカに戻ってアフリカで一生を終えようとする強い信念に感銘を受けました。歌われた曲にはどれもメッ

セージがあり心に響き、いつも被災地の人々に寄り添う宗幸さんとのふれあいの時を共有できました。このような企画を準備し実現して下さいました。役員、理事様方に感謝いたします。

三十五周年の総会にあたり歴代の会長様方がご臨席下さいました。現会長が今までの長きに亘る積極的な活動でここに至っている事、震災を乗り越え頂いた命を大切にお檀家様に寄り添えるようお話し下さいました。

二日目の研修は小杉瑞穂師の、仏さまを食べる「もったいないの心」で、食べ物にも命があり仏様の姿そのものであり丁寧に扱う事が大事とのこと。また食品ロスについてもデータを基にお話しされ、日本では家庭から

のゴミが全体の半分だそう。反省させられました。食品ロスについて家で、お寺で、ご近所のできる良いアイディアはないか話し合いをしました。時間が短く深まりませんでした。でも今回の研修は内容が充実していて勉強になりました。ありがとうございました。本当にあり





# 「県寺族会総会に参加して」

第二十一教区 光西寺寺族 菅原美保



令和元年五月八日、秋保温

泉 ホテルニュー水戸屋にて、

百二十四名参加のもと県寺族

会総会が開催されました。

北村郁子会長より、寺族会

創立三十五周年を迎え、第一

回目は、石巻市の永厳寺様に

て、第二回目は、仙台市北山

の輪王寺様にて開催されたと

おっしゃっていました。

総会議長には、福聚院 伊

達れつ子様が選出され、平成

三十九年度事業報告並びに決算

報告・監査報告、令和元年度

事業計画案並びに予算案、役

員改選とスムーズに進行され

ました。

令和元年十一月十一日(月)

から十三日(水)の三日間に

わたり、寺族会創立三十五周

年記念行事として本山研修旅

行のお話があり、一日目は大

本山永平寺の新しい伯樹關に

宿泊するそうです。二日目は

能登總持寺祖院を参拝し和倉

温泉に宿泊。三日目は五老峯

の永光寺を参拝するそうです。

役員に選出された方のお話

を伺って、何度目かという方  
や前回と違う役をされていて、  
今回またされる方がいらっしゃ  
り、私は、自分の家庭やお寺  
の事で手一杯なので、すごい  
なあと尊敬の念を抱きました。

合掌



# 研 修 会 I (人権学習)

令和元年5月8日 ホテルニュー水戸屋

講師 シンガーソングライター

さとう 宗幸氏



## 「ふれあいの時」

第十一教区 西雲寺寺族 米谷 理穂子



寺族会創立二十五周年、そして令和時代のスタートの記念すべき年の研修会講師に、シンガーソングライターのさとう宗幸氏を迎えて行われました。ギターの弾き語りで始まった最初の曲“生きるものの歌”は、世界平和や人と人との絆を感じさせる歌詞が心に響きひきこまれていきました。エピソードを交えながら何曲か聴き、中でもビックリの会の活動、永六輔氏との交流話等トークも楽しませて頂きました。私的には上皇様、上皇后様が以前に宮城県に被災地訪問

された折に美智子上皇后様が手渡されたすいせんの花束のエピソードを元に作曲した「すいせんの花」の歌はとても印象に残っています。最後にアンコールで歌った「虹をかけよう」は震災後作曲された曲で、東北各地の地名が出てくる被災地応援ソングですが、宗幸氏は古希とは思えない程のパワーで歌い会場全体が大いに盛り上がりました。宗幸氏には、これから地域に寄り添って元気に活動して下さいことを願っております。日々慌ただしく過ごしている私にとっては、本当にすばらしい癒しのひとときでした。

感謝 合掌





## 研 修 会 II

令和元年5月9日 ホテルニュー水戸屋

講師 曹洞宗総合研究センター

専任研究員 小杉 瑞穂 師

### 道元禅師の智慧に学ぶ

### 仏さまを食べる「もったいない」の心

第九教区 妙伝院寺族 青木 初子



「平成二十七年におよそ六五〇万トン」いったい何を表している数字でしょうか？なかにはピンときて、お分かりになられた方もいらっしゃるでしょう。この数字は、食べられるのに棄てられてしまった、いわゆる「食品ロス」の数字なのです。驚きの数字ですね。

「食品ロス」という言葉で、すぐに思い出されるのは「節分の日の恵方巻」です。コンビニやスーパーで売れ残った大量の恵方巻が、ゴミとして廃棄されるという映像です。お金をかけて作って、お金をかけて処分す

るといふ、製造業や外食産業等から出る「食品ロス」を事業系といい、食品ロス全体の五十五%を占めています。残りは、一般家庭から出される家庭系といわれるのが、およそ四十五%になるそうです。

多くの食糧を輸入している日本でありながら、食べないで棄てている国もまた日本という矛盾が生じています。何ともったいないことでしょう。

二年前の「おてらおやつクラブ」の研修会でも取りあげられていました「もったいない」という言葉、ケニアのノーベル平和賞受賞者のワンガリ・ムタ・マータイさんが世界に向けて使ったことにより、脚光を浴びるようになったそうです。

この「もったいない」とは「勿体」と漢字表記されます。ものが持っている存在感や価値等を表しますが、これらの事を考えないで、ぞんざいに扱ってしまうことを「勿体無い」というお話でした。

道元禅師さまの言葉によれば、全世界は仏さまの姿で、食材のひとつひとつが仏さまの姿にほかならないのです。食べ物を仏さまの姿と観ることによる、信仰生活の一部として私たち寺族も家庭系「食品ロス」を減らしていく取り組みに関わり「六五〇万トン」の数字が少しは小さくなるように努力しましょう。

事業系の「食品ロス」対策としては、ロングライフ食品という賞味期間の長い商品がますますと開発されているようです。大変有意義な研修会に出席できましたこと深く感謝いたします。

合掌

# 感謝の涙 寺族表彰に寄せて

第六教区 溪水寺寺族 穴戸 信榮



私は愛媛の寺に生まれ育ち、二十才で

宗務庁に勤めながら、駒沢短期大学(夜学)で仏教を学び、その後、社会福祉を学びたくて、結局、三十才まで学生生活を送りました。卒業と同時に、自給自足的な寺に嫁ぎ、まるつきり異なる生活環境に突入致しました。が、私の自然派志向で乗り切ることが出来ました。

私は愛媛の寺に生まれ育ち、二十才で

平成二年の本堂再建では私も寺族として、安らぎの本堂を心に描きながら、強い決意で過ごしたことが、私の人生で忘れられない思い出です。

さて、予想もしていなかったことですが、寺族表彰、受章者を代表しての御礼の御挨拶の最初から、思わず涙がこみあげてきて、書いていた短い言葉さえ、お伝えするのも、やっとでございました。その後、ずっと「あの涙は？」と問い返していますが、優しい縁に囲まれた寺で、自然の恩恵を受け、檀信徒、地域の皆さんと気持をかよわせ、毎日充足した日々を過ごさせている

こと、その感謝の涙だったのだと感じている今日この頃です。

ところで、その胸つまって心底とまとった謝辞の御挨拶は次のとおりでございます。

「令和元年という輝かしい年に、寺族表彰を頂き、誠に有難うございます。今までの年月を感慨深く思い出しております。

これからも心身の健康に感謝して寺族として精進していくという思いを強く致しております。

最後になりましたが、寺族会の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げ御礼の言葉と致します。」

合掌



# 魔法のことば

第十七教区 玖光院寺族 渡 邊 智恵子



この度は寺

族表彰を賜り  
ありがとうございます  
ございました。

まだまだ先の

ことと思っておりました。月  
日の立つのは年齢を重ねるこ  
とに早く感じられます。

父の意に反して嫁ぎまして  
から五十数年になりました。

その父から言われた忘れられ  
ない言葉があります。「百軒

の檀家があれば百人の親戚が  
できるということになるんだ

ぞ」その深い意味を考えもし  
ませんでしたが、今そのこと

ばに頷いている自分です。外  
の空気も吸ったことのない、

山育ちの何もわからない嫁に  
義母はどんなにか不安で苦勞

したことだったろう、今、義  
母の年令になって感じます。

その義母も三十三回忌を迎え

ました。

寺に嫁いでありがたく感じ  
ていることは、法話を聞く機  
会に恵まれて生活出来たこと  
でしょうか。尖った私の心も

少し丸くなってきているのは、

方丈様方のご法話のお陰かも  
しれません。「投げられた所

で起きる小法子」この言葉も  
折に触れ唱える座右の銘。私

に力を与えてくれる魔法のこ  
とばでもあるのです。

世の中も寺の有り様も目ま  
ぐるしく変化していく時代に、

寺族としてどうあるべきかと  
考えたり、些細なことで落ち

込んだりの毎日です。私に出  
来ることは「無財の七施」の

まねごとを一生続けていかれ  
る様に努力することぐらいで

しょうか。「お前と一緒にな  
れて良かった」七年前そんな

言葉を遺して住職は逝ってし

まいりました。

今兼務住職とお檀家の方々

に支えていただき暮らしてお

ります。これからも残された

人生多くの皆様とのつながり  
を大事にしなから過ごして参  
りたいと思います。

合掌

## 令和元年度

### 曹洞宗宮城県宗務所寺族

#### 表彰者名簿

☆昭和十九年一月一日〜昭和十九年十二月三十一日生まれの寺族  
☆右記以前生まれの未表彰寺族 (敬称略)

教区	寺院名	氏名
3	化度寺	根来みさを
4	耕龍寺	清水里子
4	法圓寺	寺川幸子
6	桃泉寺	金澤三四子
6	溪水寺	穴戸信榮
12	妙円寺	齋藤絢子
12	吉祥寺	佐藤加代子
13	長林寺	伊藤とし江
17	泉藏寺	藤澤恵子
17	玖光院	渡邊智恵子
18	舘山寺	葦名澄子

(曹洞宗宮城県宗務所褒賞規程第一条第二項該当者)

# 寺族物故者供養

(令和元年五月八日) ホテルニュー水戸屋

## 義母を偲んで

第三教区

龍澤寺寺族

清野悠子



心に佛を 想うとき

心そのまま 佛なり

口に佛を 唱うとき

人々みなみな 佛なり

静かに佛を 拝むとき

その身そのまま 佛なり

これは、義母・清野千代子が在りし日に作った御詠歌の歌詞です。

二〇一八年十月三十日、義母は享年七十五歳で永眠いたしました。あまりに早すぎるお別れに当時は何をどうしたら良いのかも分からずにおりましたが、生前にたくさんの方との触れ合いや絆があったからでしょうか。たくさんの方にお別れに訪れて頂きました。

義母が梅花流詠讃歌の詠範として御詠歌の世界に尽くしたことや、お寺や寺族会の発展を願い尽力したことは皆様ご存知の通りです。

しかし私は、まったく何も知らないままに嫁いできて義母との生活が始まりました。嫁いだばかりの頃、義母が普段どのような活動をしているのかということや、御詠歌がどういったものかすら解りま

せんでした。無知蒙昧な嫁だと恥じ入るばかりですが、義母はそのような私にも決して居丈高になったり何かを押し付けたりすることもせず、尋ねれば分かりやすく丁寧にも何でも教えてくれました。私が

出産で実家へ里帰りしていた頃、妊娠中毒症になりかけていることを知ると、私の身を案じた優しい手紙を送ってくれました。義母は活動的で明るいだけでなく、人の想いや苦しみに深く寄り添う方でした。

子供が生まれた時も至極可愛がり、遊びのように手仕事や庭いじりを通して自然の素晴らしさや日々の営みの大切さを教えてくれました。子供たちもおかげでおばあちゃん大好きになり、今でも季節の花を見たりすると「おばあちゃんが好きな花だ」「タケノコを堀りに行こう」「梅の収穫の季節だね」というように、

教わったことを身に付けているようです。

このように皆の記憶がある限り、義母は心の中に生きていくのでしょうか。そう思いたいのですが、ふとした時に言い表せない寂しさが沸き上がります。亡くなってからも度々義母の夢を見ました。夢の中ではいつも義母が元気な姿で笑っており、私たちは「亡くなったなんて嘘だったんだ。元気だったんだ。良かった!」と涙を流して抱きつきます。目を覚ますととても気落ちします。

仏教で言うところの「苦」は思い通りにならないことと言いますが、その代表的なことが生老病死です。知識としては解っていても、義母の死を穏やかな心で受け入れるには、まだ少し時間がかかりそうに思います。

合掌

謹んで御冥福をお祈り申し上げます



平成三十年四月一日〜平成三十一年三月三十一日御逝去

(敬称略)

教区	寺院名	氏名	死亡年月日
9	眞源寺	齋藤 洋美	平成三十年四月十五日
18	松岩寺	佐藤 光	平成三十年五月二日
1	昌伝庵	大石 とし	平成三十年五月十一日
8	西昌寺	芦原 まさ子	平成三十年六月二十七日
1	東禅院	藤原 康子	平成三十年八月二十二日
3	龍澤寺	清野 千代子	平成三十年十月三十日
17	光明寺	三浦 のぶ子	平成三十年十一月七日
11	高福寺	今野 や江の	平成三十年十一月十六日
9	桂雲寺	花山 いみ子	平成三十年十二月十日
4	鷹硯寺	池田 文子	平成三十年十二月二十六日
1	金剛寺	根本 ときわ	平成三十一年三月一日

当該者寺院からのお申し出により、掲載されていない物故者の方もいらっしやいます。

### 梅花流詠讚歌を始めてみませんか

曹洞宗の梅花流詠讚歌は、み教えと宗旨に沿った歌詞にのせてお唱えします。初めての方でも、講師の先生方が懇切丁寧にやさしくご指導くださいます。お仲間は、県内の御寺院様から集まりますので交流も楽しみです。

お寺に梅花講がある無しにかかわらず、この機会に養成所にお入りになりませんか。

尚、県内御寺院様には改めて宗務所より指導者養成所参加募集のご案内がありますのでご希望の方は、詳細をご覧の上お申し込み下さい。

#### 記

#### 一、期間

令和二年四月〜令和四年三月  
年十回（二ヶ年二十回で初級終了、上級も同様）

#### 二、会費

年会費 三万円（予定）



# 寺 族 中 央 集 会 報 告



令和元年 9 月 5 日～6 日  
曹洞宗宗務庁主催 大本山總持寺

参 加 者

第18教区 柳徳寺寺族 莊 司 史 子  
第19教区 鳳仙寺寺族 内 山 仁 省



一 日 目  
第 十 八 教 区  
柳 徳 寺 寺 族 莊 司 史 子

九月五日、大本山總持寺にて、寺族中央集会が開催されました。この日は、まだ九月初旬という事で、強い日差しが照りつけておりました。受付のある三松閣へ入った途端、ひんやりとした空気に包まれ心地よく、全国から集まった百二十四名の寺族の皆さんを涼しくして迎えて下さった事に感激致しました。

午後一時より大祖堂にて開会式が行われ、江川辰三禪師様より直々に「寺門興隆、檀信徒の教化につとめて頂きありがとうございます」との労いのお言葉を頂く有り難い機会に恵まれました。

基調講演は、  
「フードロス問題って？私から出来ることを考えよう！」と題して、講師にSDGs（エス・ディー・ジーズ）アドバイザーの松尾沙織さんを

お迎えして行われました。SDGsとは『持続可能な社会を世界レベルで実現する為の世界共通の十七個の目標』を言うそうです。

食べられるのに捨てられている食料の事をフードロスといます。世界の食品廃棄量は、約十三億トンで、これは世界の食品生産量の三分の一にあたり、この中の四分の一でも有効利用出来たら世界中の飢餓に苦しむ約八億人の腹を十分に満たすことが出来るそうです。その中には、五秒に一人飢餓で亡くなっている十五歳未満の子ども達もいます。

全人類を賄うだけの食料は既にあり、フードロスの根本的な問題は資源の分配方法にあるとの事でした。フードロスを無くすためにお寺で出来る事は何かを話し合いました。個々の取り組みが世界を救う事の始まりであり、お寺か





ら地域へ、国、世界へと人々が平和に過ごせるよう、今から私に出来る事は何かを考え、きつかけになる大変有意義な講演でした。

本山で過ごす日常とは違つ

**二日目 第十九教区 鳳仙寺寺族 内山 仁省**

二日目の朝は、四時起床。支度の後、朝課へ向かう私達に、遠くから振鈴の音が近づいてきました。寺族参加者百二十四名の長い列の脇を、衣の袖をひるがえし走りぬけていく修行僧の初々しいお姿に、未来へ繋がる若い力と、御開山瑩山禅師様から脈々と受けつがれてきた「相承」を感じることができました。

貴重な体験や、他県の寺族さんとの楽しい交流も出来ました。このような機会を与えて下さり有難うございました。

合掌

大祖堂での朝課への参列は、実に荘厳で心の洗われる素晴らしい経験でした。経典を運ぶ、すり足の修行僧のみことな動きに目を奪われる中、諸役寮、ご老師様方や修行僧の読経が大祖堂に響き渡り、胸に、からだ全体に染み込むような感動のひとつでありました。

朝食後には各班別会のもとめと、全体会での発表がありました。その概要について報告いたします。今年の班別会のメインテーマは、「寺族宗務所集会において交されている課題や疑問について、他宗

務所代表者間で改めて意見交換及び共有をはかる」というものでした。どの班からも共通する課題として、少子高齢化、過疎化による檀信徒の減少、それに伴う寺院経営の経済的な問題。また核家族化による菩提寺との関係の希薄化。家族葬や直葬など、葬儀や年回供養の簡略化、葬祭場主導の商業ベースに乗った進め方と世の中の流れ、などがあげられました。

このようなことをふまえ寺院本来の役割について、どう発信していくかという視点から、現在行っていることについての情報交換がありました。地域を巻き込んだイベント、祭り、坐禅会、法話会などの行事。又、葬儀は寺で行っている所があったり、お盆彼岸などに合わせた行事の企画などが出されました。

このような大きな取り組みの他に、身近なところから出



来ることがあるとのことで、梅花講のおけいこの後のお茶会、子ども達に菓子などをくばったり、積極的に檀家さんに声をかけるなど、ともしれば敷居の高くなりがちな寺に、親しみを持ってもらえるような環境づくりが大切でしょう。この話で会は終了しました。

全国から集まった寺族さん方との交流は、大変に貴重な経験でした。ありがとうございました。

合掌

# 寺族会創立三十五周年記念本山研修旅行

令和元年十一月十一日～十三日  
大本山永平寺

今回の研修旅行には、三田村宗務所長様、東海教化主事様、根來書記様にご同行いただき寺族二十六名が参加致しました。道元禅師様が開かれた大本山永平寺と、螢山禅師様が開かれた總持寺祖院と永光寺を参拝して参りました。曹洞宗の根幹を成す御寺院様を巡る大変有意義な研修となりました。

参加された皆様の感想を掲載致しますので、文面より皆様の感動が伝われば幸いです。

## 永平寺について

◆朝課に参列させていただき小林昌道監院老師様よりご法話もいただいで感謝です。

宿泊した柏樹園のお食事、精進料理はとても美味しく心のこもったお料理でした。

やはり御本山は特別なものです。少ない修行僧と役寮さまのご努力に頭が下がります。参列させていただき本場に有難かったです。有難うございました。

◆ご供養をしていただき本場でありがたかったです。何よりです。

空手還郷、眼横鼻直…ただあるがままの事実をもって仏法とする。日々の当たり前のことを当たり前



にするということこそ法ということを改めて教えていただき、安堵しました。が、それと同時に、日々の生活をきちんとしなければ…と身のひきしまる思いです。

喜悦心：寺族としてはうれしい言葉。素晴らしい書でもあり、また神作さんから派生してつながりのお話を伺い、何かご縁を感じました。

幅広い世代の集まった旅行は本場にいいですね。雲水さんの姿に方丈や、これから修行にむかうであろう息子の姿を重ねて何ともいえない気持ちになりました。

◆修行なさる和尚様の人数が少なくなっていると聞かされた中、すみずみまで行き届いた掃除や所作に修行のすこさ、すばらしさを実感させていただきました。

◆ご寺族の皆様と参拝できましたこと、大変感謝致しております。当たり前に過ごしている日々を



振り返ることができました。

◆傘松閣の絵天井、圧巻でした。

◆今回改めて「山門」に感動してまいりました。

建造物・仏像そして山門の意味あい・重要性・教えの深さをお勉強させて頂きました。

特に山門に感動し、この奥にどんなに大事なものがあるのか。

山門はとても「ぎんみ」されている建物である事が總持寺祖院さま永光寺さまでも感じてまいりました。

◆山門に入るだけで厳かな空気そして緊張感有難く手を合わせました。

朝課では読経供養して頂き、それに雲水達の作法を見て感激をして将来の大方丈様になることを期待します。

◆雲水さんの少なさの中、御世話していただいた伝導部の方々に大変さを聞きました。

6時頃の冷たい空気の中での朝課で名前を呼ばれた時は、うれしような感じがしました。

法堂で10月末に転役した息子の友人を見つけた時、頑張っている姿に目頭が熱くなりました。

◆檀家さん達が本山である永平寺に何度も参拝に行っているのに、寺族が一度も行った事がないというのが引け目になっていました。

今回研修旅行に参加して皆さんが感激していた訳を身をもって感じることができました。

深山の高く生い茂る木々の中に静かにたたずむ諸堂の数々。静まりかえっていた法堂の中に響きわたる重厚なお経に感動

お経に感動



し、また、名前をひとりひとり読みあげての御供養は涙が出そうになりました。

◆宿泊した柏樹關は建物が新しいばかりではなく、精進料理を器や盛り付け方、調理の仕方や味付でこんなにもおしゃれでステキな食べ方があるんだと新発見しました。

◆柏樹關での宿泊をドキドキ緊張しておりまして。

ところが、お食事はだまって食べることなく、なごやかにゆっくりにおいしくいただきました。

朝の目覚ましがみんなのアラームとアレクサに起こしてもらった事が忘れられません。

沢山の経験、体験をお持ちのご寺族様と、柏樹關から朝まだ暗い道を本山まで歩き、朝課、「ご供養、諸堂拝観で一緒にさせていただきまして、とても勉強させていただきました事、気づかせていただく事がありません。とても有意義な時間を過ごせましたことに感謝いたします。

◆雲水さんの修行をしているお姿を拝見し、正直「うちの息子に務まるのかしら??」と少し不安になりましたが、耐えてくれると信じて、今までどおり寺の方丈の補佐に全力を注ぎたいと思えました。

永平寺でご供養をしていただき感銘をうけるとともに若い雲水さんたちの健闘を祈りました。

紅葉の時期が今年はズレた、ということ、(紅葉につつまれた永

平寺)を参拝できたことは幸運なことでした。

◆朝3時40分起床 永平寺法堂において朝課が始まります。身がひきまります。

莊嚴の読経の中、背すじを伸ばしこれからも正しい生活を送らねばと肝に命じました。

◆二十年ぶりに参拝させて頂けたことに感謝致します。

御本山の莊嚴な伽藍と雲水さん達の動きのうつくしさに心洗われる思いがしました。

又、横山国際参禅部長老師の御法話で「今を生きる」というお話がとても勉強になり、これからの生活に活かしていきたいと思えました。

◆総持寺祖院・永光寺について

◆工事中の境内が震災の痛々しさを感じさせる祖院様。

山門修理のお話にビックリ。解体するとわからなくなるので、そのままの形で移動し、現在の形に戻されたそうです。

五老峯の永光寺様では峨山道入口に立ち感動。



◆本山であれ、小さな寺であれ、護って行く事のむずかしさ、大切さを目のあたりにし、

気を引き締めないと自分にはい

きかせる一日でした。

◆総持寺祖院も初めて

でしたが、すばらしい境内で心が洗われました。もう少しで再建とのこと、無事落慶の日を迎えられることを祈っております。



総持寺祖院にて

今回、教区旅行でなく、県寺族旅行に参加して、新しいご縁があり、皆様との交流が出来て良かったです。

瑩山禅師様のお墓参りが出来て、良かったです。

住職のお話が親しみやすく楽しかったです。

◆祖院は震災から12年たっても、「道半ば」であり、次に来るであろう災害にどう向き合えばいいのか改めて考えさせられました。

永光寺は、自然災害より、時代の政治的からみの災いにずっと立ち向かって今日を迎えているように感じました。大小問わず一ヶ寺を護持する大変さを思い知らされ今



総持寺祖院山門

できることをがんばろうという結論となりました。

◆山内の説明を詳しくして頂き寺族会だからこそ良い体験が出来ました。

◆宗務所寺族会研修という事でも有難く丁寧な御法話もいただきました。

お茶のおもてなしをいただきました事、「寺族さま」とはどんなにか大事な方々であるお立場の方、であるかをお教えいただきました。

この様な研修会に参加できました事、厚く感謝申し上げます。

永光寺さまの秘仏の御開帳に参拝できました事、幸せでした。



永光寺法堂（本堂）前にて



總持寺祖院山門前にて

◆初めて参拝させていただいた永光寺。

瑩山禅師様の「法燈」・「相承」に対する強い信念が時を超えて強く感じられる空間でした。

◆永平寺と總持寺祖院は何度か参拝していましたが永光寺は始めてでした。深い静寂の中で瑩山禅師の御心にふれる旅が出来大変有意義な旅となりました。

皆様大変お世話様でした。感謝です。

◆ポロポロにすりへったすりこぎやしゃもじが歴代の和尚様はじめ多くの方々の姿と重なり、大変心に残っております。苦しさを感じた時は、いつでも思い出してふんばるよすがにできたらと思います。

伝燈院参拝の際、瑩山禅師様が小僧さんになって下の畑で遊んでおり、鐘をつくとかあつという間に戻ってきてくださると聞いて、一気に親しみが増し、身近でいつも見守っていただいているように感じました。

瑩山禅師様の墳墓にお参りする際、急激に足が重くなり、もって心身をきたえなさいと言われたように感じました。…いつか峨山道旅行に参加できたらと思いました。多くの方々のご尽力とご厚意により、このような貴重な研修旅行の機会をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

◆行って見たかった祖院を参拝することができ、とてもいい経験が

できました。

地震からの復興、台風からの復興を心から願いました。

永光寺では短い時間でしたが、ご住職様にいてねいに説明していただき、とても勉強になりました。今まで本で読んだり、お話を聞いたことしかなかったことを、実際に自分の目でみる事ができ、とてもよかったです。はじめて寺族会の旅行に参加させていただき、なによりも、皆様との出会い・楽しいお話に感謝です。

◆總持寺祖院の経蔵の中ではお経の入れである輪蔵を、回り舞台よろしくまわして下さりびっくり致しました。さらに、お部屋ではお茶とお菓子のご接待を頂戴致し恐縮でした。三回目の参拝ですが、伽藍のすばらしさに改めて目を見張りました。そして、ずっと大切にして行かねばと思いました。日本の木造建築のすばらしさも再確認しました。回を重ねる事に密度が濃い旅行になっています。

◆總持寺祖院では工事中でしたが、とても立派で厳かな建物でした。さすが加賀百万石だと思えます。

◆脈々と受



五老峯への廻廊

けつがれてきている曹洞宗のお祖師さま方の足跡を参拝出来有り難い気持ちです。

地震の跡の修復も大分進んでいきましたが尚一層と思いい瓦志納をさせて頂きました。

立派なお祖師さま方の御教えをこれからも護り伝えられるよう念じます。

太祖さまのお開きになられた永光寺を頭では分かっていたのですが、今回実際に参拝出来て尚有難さが増しました。お開きになられた道元さま、広く広められた瑩山さま、お祖師さまのお蔭で今日私達がその教えを頂き、これからも大事にしていきたいものです。

五老峯もお参り出来、大変有意義な研修でした。お世話頂き有難うございます。

ご参加の皆様から沢山の感想を寄せていただきましたが、紙面の都合上一人ひとつの感想に割愛させていただきますので、ご了承下さい。



永光寺伝燈院前にて

## 令和元年度 各教区の行事

(各教区共通の総会、役員会等は省略 ○の数字は月を表す)

教 区	研修会（日帰り）	研修会（泊り）	協力・参加	禅をきく会	忘・新年会
1	①人権学習会、懇親会 ②3教区合同研修会 (1、2、21教区)		⑨教区万灯供養会		
2	②3教区合同研修会 (1、2、21教区)	⑦移動研修会 (函館高龍寺参拝)			①新年会
3	④人権学習	⑦修善寺参拝(静岡県)		⑩	①新年会
4	①落語鑑賞			⑥	①忘年会
5	⑩岩手県報恩寺参拝 ②研修会				②新年会
6	③⑩				⑫忘年会
7		⑦移動研修会			⑫忘年会 ②新年会
8	⑦研修会(福島)		⑦緑陰禅の集い ⑫教区人権学習会		②新年会
9	⑩研修会(岩手方面)		⑦教区梅花奉詠大会 ⑩教区親睦会		②新年会
10		⑪研修旅行(永平寺)			①新年会
11	④人権学習会		⑨宮曹青バザー		⑫忘年会
12	⑩研修会(福島) ②学習会		⑦緑陰禅の集い ⑨教区仏教講演会		
13	⑥法話を聞く会 ⑪移動研修会				②新年会
14	⑩移動研修会(盛岡方面)		⑥禅文化講演会 ⑨東北新生園慰霊法要 ⑫教区梅花大会		②新年会
15	⑩移動研修会 ⑪茶道		⑨学習会	⑩	⑫忘年会
16	⑪旭が丘学園訪問	⑩移動研修会 (長野岩松院参拝)		②	②新年会
17	⑨第1回学習会		⑦夏休み禅の集い ⑫教区人権学習会		①忘年会
18	⑥研修会(東北歴史博物館) ⑪研修会		⑨教区梅花奉詠大会		②新年会
19	⑨絵本を届ける運動		⑨学習会	⑩	①新年会
20	⑦研修会(仙台方面)				①忘年会
21	⑩仙台市天文台見学 ②3教区合同研修会 (1、2、21教区)				

# 教 区 だ よ り

〔第 4 教区〕



もっと気楽に

第四教区 吉祥寺寺族  
田村 恵美子

第四教区寺族会は、岩沼市、名取市に点在するご寺院二十四ヶ寺の内十八ヶ寺の寺族で活動しています。年間の行事は、四月の教区寺族総会に始まり、年二回の研修会が主な行事となります。教区寺族総会は、岩沼、名取(二回)を交互に輪番制で、ご寺院を会場に開催されます。総会後は、楽しい懇親会となり、おしゃべりをしながら美味しいお食事を頂きます。研修会などの行事は、その年の役員が事前に集まり、お茶をしながら時にはランチをしながら決めます。企画するのは大変ですがそれも一つの楽しみです。前年度は、「美しい信濃路、善光寺参拝とやさしい美術館を訪ねる旅路」と題して紅葉の美しい十月に一泊二日の移動研修会へ行ってきました。

安曇野ちひろ美術館、高橋まゆみ人形館、中でも葛飾北斎館の北斎筆の天井絵が描かれた一基の祭屋台(長野県宝)が迫力満点で素晴しかったです。美術館を拝観した後、そろそろ馴れない場所です、疲れが溜まって来る頃に、お土産店を出来立ての大粒の焼き栗を頬張りました。栗のホクホク感と甘みが皆さんを笑顔にしてくれました。一日目は、「遠くても一度は詣れ善光寺」へ参拝です。ご本堂の大きさは、国宝建造物の中では、東大寺大仏殿、三十三間堂に次いで三番目の大きさを誇っているそうです。旅の土産話にと、ドキドキのお戒壇巡りも体験して来ました。お戒壇巡りをする中で、「極楽浄土が約束される」と言われています。回廊の中は、本当に真っ暗闇で何も見えませんが、入った途端に足が竦んでしまい前に進むことが出来なくなり、私の前を歩く方に私の手を握ってもらい、後を歩く方に支えてもらいながら一歩一歩確かめながら何とか、出口まで辿り付きました。出口の明りが見えた時には、安堵の胸を撫で下ろしました。ご利益以上に私を支えて下さったお一人の優しさがとても有難かったです。とにかく観光客、参拝者の数がかく観光客、参拝者の数が半端なく多く賑わっていました。帰りの新幹線の中では、皆さんから、「楽しかったねえ」「来て良かったわ」

「来年は、どこへ行くの、楽しみねえ」との声が上がりました。今年度の一回目の教区寺族研修会は、「禅をきく会」の六月に行なわれ、制作した全国曹洞宗青年会が制作しました映画、「典座-TENZO」を拝見しました。道元禅師様の「典座教訓」を軸に現代社会の中で食生活の大切さ、有難さは勿論のこと、多方面から食の在り方を考えると共に現代的に求められる仏教の在り方を試行錯誤を重ねながら参究していく素晴らしい映画でした。最近では、食物アレルギーや食品ロスなどが問題視されています。映画終了後は、場所を移動して懇親会へ、美味しいお食事を頂きながら、楽しいおしゃべり、特に先輩方からの貴重なお話は、寺族として学ぶべきことや励まされることが沢山あります。

これからますます世代を越えて、もっと気楽に一人でもより多くの寺族が、「参加してみたい」「参加して良かった」と思える様な、楽しく、有意義な教区寺族会を目標に、相互に理解し合い、学び合い、協力し合える様に頑張りたいと思います。

合掌

# 教 区 だ よ り

〔第15教区〕



## 楽しい研修会

第十五教区 長観寺寺族

小松 豊実

第十五教区寺族会は、太平洋沿岸ぞいに多く南三陸町、津山町、北上町の十一ヶ寺の会員で構成されています。震災直後は困難な状況で少し活動を休止していましたが、互いに声を掛け合い、集る事が出来ました。まずは総会の開催日を決め、研修会については後ほど総会にて話し合う事にしました。これまでと話の流れは変わり、今の現状について報告し合う形となり、時の経過つのも忘れる程、話は尽きませんでしたが、この日は名残惜しい思いで解散しました。以前の研修会は泊りで遠出をしたり、年に一度の総会も時々一泊で行い、総会後の懇親会、夜はゆっくり語り合った事もありました。今では色々とお事情もあり、参加されない寺族

様もおりまして、泊りでの研修会は難しくなりました。昨年の研修会は、日帰りで青葉城址散策。天気にも恵まれ、時々心地良い風が吹き武将隊に扮した方から詳しく歴史の説明をしていただきました。昼食は、好きな物が食べられるバイキングでした。その後楽楽楽ホールにて禅をきく会。この日の講師は青森県恐山院代、福井県霊泉寺住職、南直哉老師、お題「死に向かつて生きる」でした。日常生活を交えながら、つぎつぎに繰り出されるお話の展開に「あっ」と言う間に引き込まれ、とても興味深く、またたく間に時は過ぎてしまいました。好評でしたので今年も禅をきく会を中心にした研修会が計画されました。



十一月には、茶道の研修会、教区内の寺族様が講師になってくださり、ちょっと緊張しながらも、お仲間の方が講師と言う事も有り、おいしいお茶とお干菓子をいただきながら、楽しく、穏やかにお作法を学び、終る頃には「良かったネエ」「またやりたいネエ」の声もあつたので、今後も継続する方向に期待したいと思います。こんにちまで先輩方が歩み繋いで来た思いを大切に、これからも色々教えていただきながら、楽しい会になる様に皆で協力したいながら進んで行きたいと思えます。

合掌



令和元年度 曹洞宗宮城県宗務所寺族会総会並びに寺族宗務所集会・研修会  
2019年5月8日 於 ホテル ニュー水戸屋

事務局だより

○第二回学習会

令和二年二月四日(火) — 宗務所 —

○令和二年度寺族会総会・集会・研修会

令和二年五月十二日(火)〜十三日(水) — ホテルニュー水戸屋 —

○東北管区第三回寺族会研修会

令和二年九月八日(火)〜九日(水) — かみのやま温泉日本の宿古窯 —



編集後記

寺族会創立三十五周年、記念すべき三十四号を無事に発行することが出来ました。教区にいるだけでは出会えなかった寺族の方々、協力し合い楽しみながらの編集作業でした。お忙しいところ、多くの皆様に快く原稿を引き受けて頂き大変ありがたく思っております。お陰様で会報発行となりました。心より深く感謝申し上げます。

編集委員一同

我妻 有	2 教区	江巖寺
佐藤まさ子	6 教区	福應寺
仙石 洋子	7 教区	湯船寺
山川 裕子	11教区	法昌寺
岸 恵代子	9 教区	三古寺
三宅 仁子	13教区	照源寺
金山多賀子	2 教区	松音寺
藤原 艶子	8 教区	宝泉院
加藤 伸子	12教区	浄音寺
小松 豊実	15教区	長観寺

